

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第369回

J S T

第2回日印大学等フォーラム

科学技術振興機構さくらサイエンスプログラム推進本部は9月30日、京都市内のザ・プリンス京都宝ヶ池で「第2回日印大学等フォーラム」を開催した。

戦略的パートナーである日本とインドの科学技術・学術における協力関係の促進、とりわけ若い人材の育成とその循環は両国の発展にとって極めて重要な課題だ。今回、日印の協力を一層促進するための交流基盤の形成を目的として、「日印間の頭脳循環の促進」をテーマにインド側トップ大学から10校、日本側大学から20校、その他3機関と3企業（いずれも学長・理事クラス）が参加して開催された。

来賓にシビ・ジョージ駐日インド大使、鈴木浩駐インド日本国大使、文部科学省の清浦隆科学技術・学術政策局担当審議官を迎えたジョージ大使からは、これまでの政府間の交流や企業間交流を通じて、今後は大学間の交流が強化されることを期待する旨が述べられた。鈴木大使からは、在日インド留学生の増加のために、日印の大学それぞれが様々な対策を講じて欲しいと希望する旨が述べられた。また、清浦審議官は「日印両国の発展と関係の深化には両国を行き来する環境、特に科学技術イノベーション分野での共同研究や留学



出席者全員で記念撮影



2つのテーマに分かれて行われた座談会

等の幅広い交流の一層の充実が求められ、今回のフォーラムでの大学・企業間の直接対話を通じて具体的な成果が結実することを期待する」と述べた。

主催者である科学技術振興機構（JST）の橋本和仁理事長からは、今年3月の日印首脳会談で両首脳が言及した留学生増加への取り組みに関し、JSTとしても両国間の交流促進を担う「さくらサイエンスプログラム」のさらなる推進に努めていくとの挨拶がなされた。

その後、日印の大学・機関・企業が、それぞれの立場での日印間の頭脳循環の取り組みや、今後の展望等について基調講演を行った。基調講演の後には、2つのテーマ「インドからの留学生・研究者拡大のための環境整備」、「人材の流動に向けた産学連携」に分かれて座談会が行われ、意見交換が行われた。

第二部は、日印大学間の個別会合が設定され、具体的な連携や交流のさらなる実現に向けて話し合いが行われた。

同フォーラムの特徴は、第一に、インドに進出あるいはインドから若い人材の雇用に意欲的な企業の参加を得て、日印頭脳循環に対する産学官連携について意見交換を行ったこと、第二に、日印の個々の大学間の具体的な方法を促進するため40組以上の個別会合を行ったことにある。いずれも実りある交流が実施された。

第1回日印大学等フォーラム受け JST、インド大学生招へいプログラム開始

さくらサイエンスプログラムではJSTが直接実施するプログラムとして、2023年度より新たに「インド大学生招へいプログラム」を開始した。今回、インドの有力大学より計49名が来日し、プログラムの参加9大学。この招へいプログラムは、インドより9名の学長・副学長、日本の大学関係機関より22名の学長・理事長らが参加した第1回日印大学等フォーラム（今年1月開催）で採択された宣言文のうち「日本との研究・人材交流に興味のあるインドの大学生に対し、『さくらサイエンスプログラム』を活用して、日本の大学等で体験する機会を提供する（抜粋）」に基づき実施された。

プログラム期間中、招へい者は慶応義塾大学、東京大学、物質・材料研究機構（NIMS）を訪問し、日本のトップレベルの研究環境を体験した。慶応義塾大学には2日にわたり訪問。初日に同大の日印研究・ラボが主催する特別プログラムで同大や同ラボの紹介などが実施され、2日目には理工学部の研究室訪問等を通して同大における研究生活を体験した。



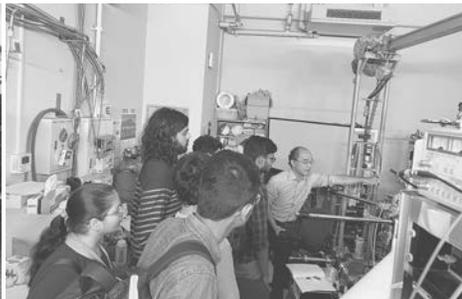
積極的に質問をする大学生ら (NIMSで)



プレゼンに熱心に耳を傾ける大学生ら (慶応義塾大学で)



大学・企業説明会 (北海道大学のブースで)



研究室訪問 (東京大学で)

最終日には修了式が開催された。シビ・ジョージ駐日インド大使や第2回日印大学等フォーラムに参加する8名のインドの有力大学長等が参加し、日本とインドにおける人的交流、学術交流の重要性などが確認されたほか、プログラムの成功が祝われた。

また、インドの学生らが日本への留学、共同研究、就職に係る関心を高めることを目的として9月27日の午後には「インド大学生招へい大学・企業説明会」が開催された。日本各地のトップ大学12校（北海道大、東北大、筑波大、東京工業大、横浜国立大、長岡技術科学大、岐阜大、静岡大、名古屋大、京大、大阪大、広島大）、1企業（富士通株）、2機関（日本学生支援機構、国際協力機構）が参加し、招へい者に対してプレゼンテーションを通じて留学方法や生活、留学後のキャリアプランなどを紹介するとともに、ブース出展で個別の相談対応を行った。

東京大学では、同大の大学紹介や留学方法、インド留学生会との交流などが行われた後、招へい者の関心に応じて6つの異なる分野の研究室を訪問し、実際の研究室における研究を体験した。NIMSでは、機構についての紹介や同機構の留学生によるプレゼンテーションの後、機構内の研究室を訪問した。また、インドの学生らが日本への留学、共同研究、就職に係る関心を高めることを目的として9月27日の午後には「インド大学生招へい大学・企業説明会」が開催された。日本各地のトップ大学12校（北海道大、東北大、筑波大、東京工業大、横浜国立大、長岡技術科学大、岐阜大、静岡大、名古屋大、京大、大阪大、広島大）、1企業（富士通株）、2機関（日本学生支援機構、国際協力機構）が参加し、招へい者に対してプレゼンテーションを通じて留学方法や生活、留学後のキャリアプランなどを紹介するとともに、ブース出展で個別の相談対応を行った。

招へい者の在席大学	
1	アンナ大学
2	デリー大学
3	インド工科大学ボンベイ校
4	インド工科大学デリー校
5	インド工科大学グワハティ校
6	インド工科大学ハイデラバード校
7	インド工科大学カンプール校
8	インド工科大学カラグルル校
9	インド工科大学マドラス校